

### 3 中学校の外国語科につなげるために

#### (1) 小学校外国語活動と中学校外国語科の目標

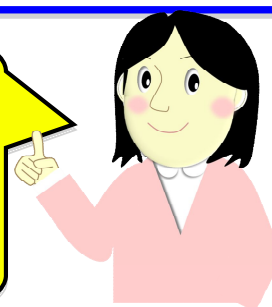
学習指導要領解説では、小学校ではコミュニケーション能力の**素地**を育て、中学校ではコミュニケーション能力の**基礎**を育てることを目標としています。

小学校	<b>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</b>	
	自分の思いを相手にわかりやすいように、言葉（言い換え、繰り返し、話す速度、声の大きさを調整）やジェスチャー、アイコンタクトを駆使して、より多くの人に伝えたり、うなずきなど反応をして相手の思いを理解しようとする。	



中学校	<b>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</b>	
	自分の考え、知識、経験などを相手にわかりやすいように、基本的な知識や技能を活用してより多くの情報を表現して相手に伝えたり、やりとりをして相手の考えを理解しようとする。	

小学校外国語活動の指導のポイントは、コミュニケーションに対する関心・意欲・態度の観点を中心に育成することです。話す、聞く能力を育てるわけではありません。児童が積極的にコミュニケーションをとる中で、結果として外国語に慣れ親しんでいくのです。



小学校	<b>外国語への慣れ親しみ</b>	
	基本的な英語表現に強勢やリズムをつけて話したり、聞いて理解したりして、ゲームなどの活動を行う。	

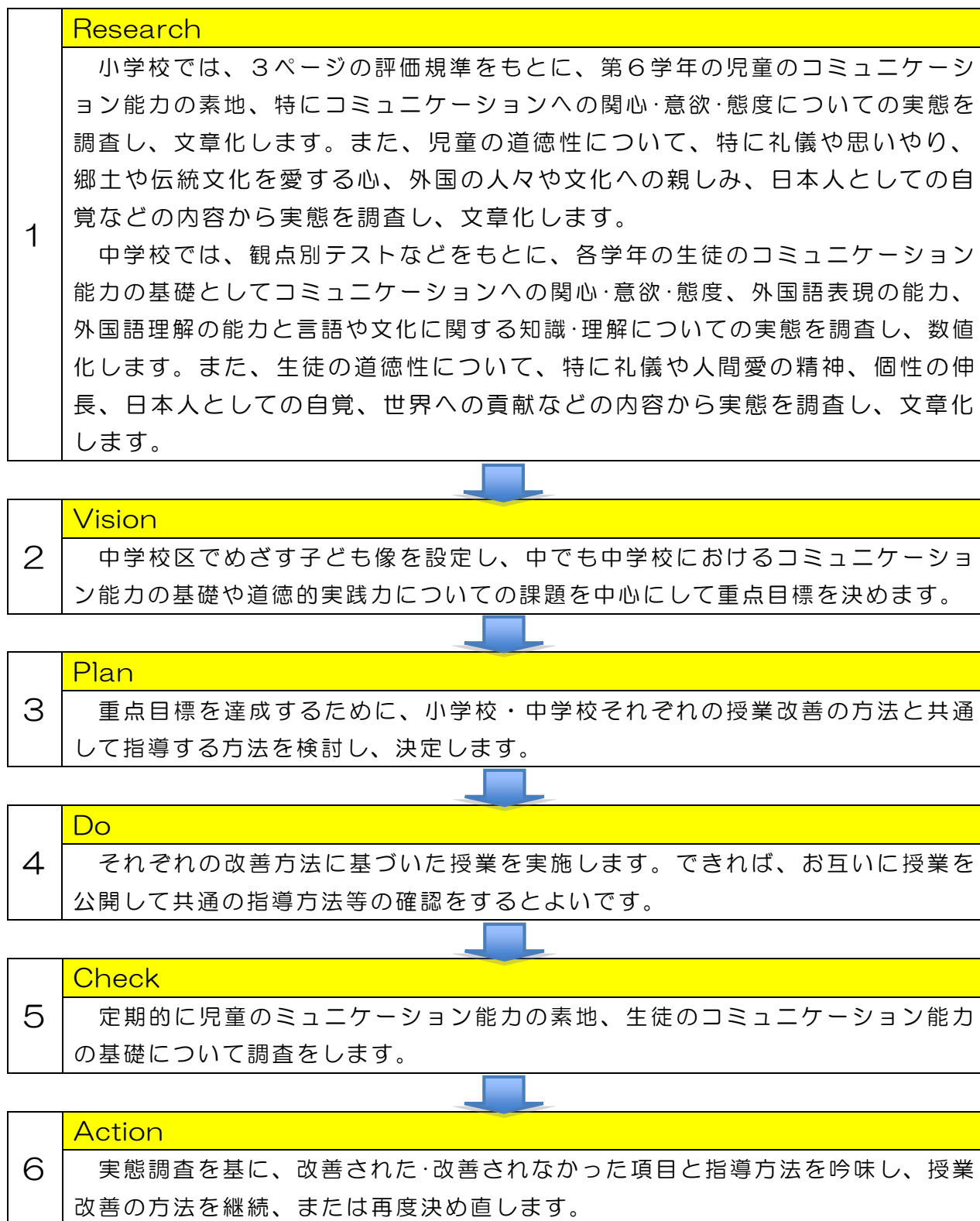
中学校	<b>外国語表現の能力</b>	<b>外国語理解の能力</b>
	初歩的な英語を活用して自分の考え経験、知識などを構成して話したり書いたりすることができる。	初歩的な英語を聞いたり読んだりして相手の意向などを理解することができる。

小学校	<b>言語や文化に関する気付き</b>	
	発音、強勢、リズム、音節の差異性や共通性、生活習慣や行事など文化の差異性や共通性を体験から理解する。	

中学校	<b>言語や文化についての知識・理解</b>	
	生活習慣や行事など文化の差異性や共通性を理解したり、文法事項の文構造、英文の発音、強勢、リズムを習得したりすることができる。	

## (2) 小中連携の進め方

小中連携を進める上で大切なのは、何のために連携するのかを明確にしておくことです。外国語に関してどこに課題があって、それをどうやって解決しようとするのか、その道筋を明らかにすることが大切です。そのためには下記のようなRVPDCAサイクルですすめるとよいでしょう。



## 日常の指導について

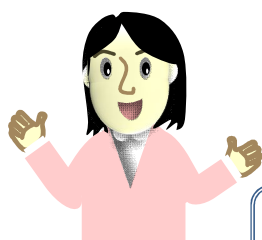
**インタビュー活動で相手が何と言っているか分からなかった時、日本語で話している児童がいるのですが、どうすればよいのでしょうか？**



小学校でも中学校でも、次の二つのことを継続して指導しましょう。

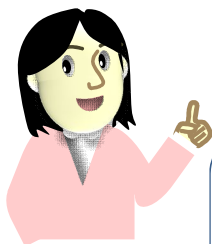
- 1 繰り返し言うこと、Pardon?と聞き返してみる
- 2 ジェスチャーを試してみる

**インタビュー活動で気を付けることはありますか？**



アイ・コンタクトや挨拶をきちんとさせるため、メモは会話が終わってからとるように指導しましょう。

**教科との関連は、どのようにすればよいのでしょうか？**



事前に行われた教科の学習内容を生かして活動で使用する絵カードや英語表現を決めるとよいです。

また、外国語活動での体験をもとに自分の姿を見つめる道徳の時間の指導にいかしたり、総合的な学習の時間の学習において外国語活動での気づきを生かして課題を設定させたりすることが可能です。



**日頃から英会話に慣れ親しんでいる児童が多い地域の小学校は外国語活動がうまくいくと思うのですが、どうでしょうか？**

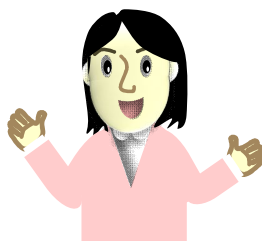
授業では「発音がよかったね」「スラスラと言えていましたね」などを評価するのではなく、関心・意欲・態度の観点を中心に評価をすべきです。外国語活動では、必ずしも塾や英会話学校に通っている児童ばかりが活躍する学習ではありません。



**外国語活動の授業以外で、外国語に興味・関心をもたせるよい方法がありますか？**

次のようにしてはみてはどうでしょう

- 1 朝の健康観察を週に1～2回英語で行ってみる。  
How are you? I'm good! など
- 2 朝の会、帰りの会に外国語活動で行ったチャンツや歌を入れてみる。
- 3 廊下の掲示板に外国語活動で使用した表現とその絵カードを掲示したり、階段に曜日や月の英語を掲示したりしてみる。



**本校の児童は、英語ノートの活動（外国語活動）に飽きているようですが、どうしたらよいでしょうか？**

ゲーム中心の授業や皆が決まった答えを言う授業であれば当然飽きが来ると思います。そこで、次のような工夫をしてみてもよいでしょうか？

- 1 言える児童には、どんどん表現内容の付加をさせること。パターンに付け加えて表現してよいようにする。
- 2 単に英語が言えればよいのではなく、苦手な児童にでも伝わるように、ゆっくり言ったり言い換えたり、ジェスチャーを使わせたりするなど表現の仕方を工夫させます。



### 指導要録や通知表の表記はどうすればよいのでしょうか？

「～についての～活動において、～していました。」などの型を作っておくとよいです。

例) できる・できないのインタビュー活動において、多くの人に話をすることができていました。また、相手の話にうなづくなど、反応をしながら聞くことができていました。

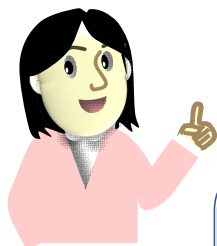


### インタビュー活動などが間延びして児童の意欲が減退したり、日本語で会話したりする児童がいるのですが、どうすればよいのでしょうか？

15分程度の活動時間が取れるなら、途中で評価（主眼に応じて）を入れるとよいです。

- 1 インタビュー活動1（5分）
- 2 評価（2分）
- 3 インタビュー活動2（8分）

また、キーセンテンスを発音することに自信がない場合がありますので、導入時には聞く活動を十分に取り入れておきましょう。

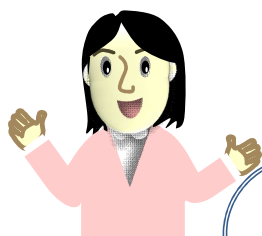


### 英語の雰囲気づくりをするにはどうしたらよいのでしょうか？

次のようにしてはみてはどうでしょう。

- 1 空き教室があれば、それを利用してEnglish Roomを作りましょう。
- 2 英語の音楽を活用（授業が始まる前から流す）してみましょう。
- 3 授業の導入で英語ノートのチャンツや歌を活用してみましょう。

# 小中連携の取組について

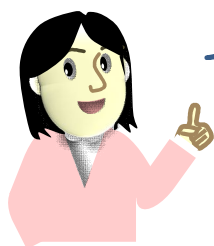


## 具体的に小中連携はどう始めたらよいですか？（小学校）

最初に、小学校から中学校の外国語科へ次のことを伝えましょう。

- 1 使用したクラスルームイングリッシュを知らせる。
- 2 英語ノートの中で行った活動と行っていない活動を知らせる。
- 3 評価規準に基づいて、おおよそどのような子どもに育てられたかを知らせる。
- 4 中学校区のめざす子ども像（学校教育目標にかかわって）を設定し、共通理解を図りましょう。

## 小学校で「言い換え」「付加」ができる児童に育ったとして、中学校では100%正しい英文で表現しないと○をもらえないのではないですか？（小学校）



中学校の定期考査は「知識・理解」のみを測定するものではありません。

「表現の能力」「理解の能力」も測定します。

例) 夢についての英作文

評価規準・・・文（異語数）の数  
正確さ  
構成 など

**「アルファベットが書けない」、「ローマ字と英語の表記が混乱している」子どもがいる。小学校できちんと指導をしてもらえませんか？（中学校）**

アルファベットを書くことは、外国語活動が始まる以前からの問題です。小学校では文字は理解の補助としての取り扱いなので、読める子どももいるでしょうが、読めるように指導するわけではありません。よって、中学校が指導すべきことです。

しかし、小学校では名刺交換の活動などを行いますので、自分の名前のアルファベットを読んだり書いたりすることはできると思います。



**中学校に入学した時点で英語が苦手、嫌いと感じている生徒がいますが、どうすればよいですか？（中学校）**

まず該当の生徒になぜ苦手と感じているか、嫌いなのか聞いてみましょう。

○ コミュニケーション自体が苦手な生徒もいるので、中学校の授業では活動のルールに配慮をして下さい。例えば、インタビュー活動を二人組でインタビューして回るようにするなど。

○ 小学校の活動が、英語を覚えてないと「できなかった」「あまり活躍できなかった」というのであれば、小学校の先生方は次の視点で授業を見直してもらいたいです。

① ゲームなど活動は、競争第一ではいけません。特に、1単位時間の最後の活動は他者と協力する、他者のことがわかる、自分のことを伝えるような活動であるべきです。なぜなら、外国語活動は「人と人とのよりよい関係を作る」ための授業だからです。

② 活動前に聞く活動をしっかり行うこと。聞かせていないのに、いきなり発音するのは難しいものです。

